

論説文講評

岡島 成行

今年も力作ぞろいでしたが、優秀賞に該当はなく、奨励賞に田島有理子さんの「リーダーシップの木」が選ばれました。論説文らしいスタイルが確立され、意見文としてうまくまとまっています。タイトルもきれいで木と風の比喩の使い方も良かったです。始めと終わりに出てくる先生の言葉もほどよくまとまっていました。自画自賛という感じが強かったので、もう少し客観性が保てていたらもっと良かったと思います。

佳作は氏家音絵さんの「リーダーだって人間だ」と香川えり子さんの「リーダーシップとは」の二篇に決まりました。氏家さんの作品は、自分の体験を踏まえていて、良く書けていました。最後に現在の政治家の話が出てきたのですが、やや唐突な感じがしました。こなれていませんでした。香川さんの作品は、誰にも素直に言い分が伝わる文章でした。しかし体験の中での気づきと後半の論理展開がうまくつながっていませんでした。

野村桜子さんの「輝く星」はタイトルの付け方が良かったと思います。しかし、政治家の話と ALOHA の話が独立していてまとまりに欠けていました。原田怜奈さんの「リーダーシップと独裁」は飛躍が大きく視点が定まらなかったようです。扱った素材が大きすぎて手に余ったのでしょう。でも、意欲は伝わりました。奥村千尋さんの「リーダーシップとは」も扱った内容があまりに大きく、自分の意見として説得力ある形にはなりません。宮里辰輝君の「リーダーシップを支えるもの」は自分の経験から書いていて、中学生らしい作品でした。しかし論説文としては主張が弱かった。

みなさんの作品はそれぞれに個性があり、順位を付けるのが難しかったのですが、田島さんの作品がきちんとまとまっている点で一步リードしました。論説文は書き慣れていないためか、難しいかもしれませんが、みずみずしい感性を軸に思い切った主張が聞きたいと思います。来年もぜひたくさんのお応募があるよう期待しています。